

# 家計収支の国際比較－タイとスリランカのミクロデータを用いて－

(公財) 統計情報研究開発センター 米澤 香・安井 浩子・新井 郁子、  
一橋大学・東京国際大学 松田 芳郎、統計数理研究所 馬場 康維

近年のアジアの国々の経済発展は目覚ましいものがあるが、これが各国での経済格差を生む原因にもなっている。我々はタイとスリランカのミクロデータ (Household Socio-Economic Survey (HSES2007) および Household Income and Expenditure Survey (HIES(2006/2007))) を用いて、家計収支の分析を試みた。その結果、家計収入額・家計支出額について、タイとスリランカのいずれにおいても、都市部の方が農村部他より高いという地域間格差の存在が明らかになった。この格差の原因のひとつとしてあげられたのは、都市部と農村部他との賃金格差と、就業構造の違いである。また両国とも支出が収入を上回る赤字世帯が存在しており、その割合は収入額階級の最下位層で高くなっている。このように両国の分析結果から格差について同様の傾向が見られた。

このような分析結果の背景には、タイとスリランカの急速な経済発展がある。タイは1980年半ばから1990年代前半にかけて、一方のスリランカは1990年代から2000年代にかけて目覚ましい経済発展を遂げた。利用した両国のミクロデータは2007年前後に調査が行われたもので、両国の経済発展後の格差拡大の実態を表していると言える。

ほぼ同時期に経済発展を遂げ、同傾向の地域間格差が存在したタイとスリランカであるが、人口数や地域区分、文化、経済が異なることから、格差の原因がまったく同じであるとは考えにくい。そこで、それぞれの地域間格差の特徴を明らかにするため、両国の比較を行った。比較に際しては、貨幣単位を統一するため、1 baht=3.62 円、1 Rs. =1.03 円 (2007年平均) に換算したうえで、世帯収入を勤労所得・事業所得・金利・年金・その他の5種類に分類し、地域別、収入階級別にこの1ヵ月当たりの世帯収入内訳の比較を行った。

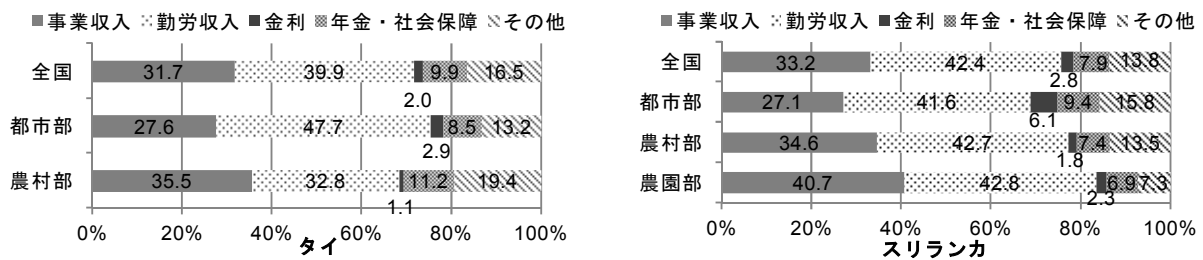


図1 地域別収入内訳

地域別の収入内訳からは、タイでは勤労収入に地域差が生じているが、スリランカでは地域差が見られず、さらにスリランカでは都市部において金利による収入割合が高くなっている。また、タイでは農村部での年金・社会保障で都市部やスリランカと比べて高くなっていることから、地域間格差への対策が反映されていることがわかる。このように収入内訳等から両国を比較した両国の格差の特徴を報告する。